

白山ふるさと文学賞

第七回 白山市ジュニア文芸賞 受賞作品

【島清部門】

小学生5・6年作文の部 優秀賞

「手話」で勉強を教える

明光小学校六年

窪田くぼた

奈美なみ

私のしよう来の夢は、ろう学校の先生になって、「手話」で勉強を教えることです。私がろう学校の先生になりたい理由は三つあります。

一つ目は、私は手話や福祉に興味があるからです。4年生の時に総合の授業でした福祉についてのお話に興味を持ったし、福祉の事について取り上げられたテレビにも興味があります。そして、手話にもすごく興味があります。私は手話を覚えたくて、手話付きの番組を見たり、手話の動画を見たりしていました。そして、手話と似ている「指文字」も覚えたくて、指文字がのっている本を見たり、指文字の表の画像を調べたりしました。私はまだ、手話は少しだけ単語が出来たり、あいさつをしたり、自分の名前が出来たりぐらいだし、指文字も少しだけしか覚えてないけど、これから少しずつでも覚えていって、手話をつかってふつうに会話出来るぐらい覚えたいです。

二つ目は、お父さんの言葉です。私はお父さんに、「私、手話に興味あるよ。」

と言ったら、お父さんは、

「大きくなったら覚えれば良いんじゃない。」

と言ってくれました。確かに私は手話をまだ本かく的に勉強していませんので、今は少しずつ覚えていって、大きくなってから本かく的に勉強しようと思いました。私がしよう来の夢を考えていた時、しゅみと結び付けられる仕事が良くて、ろう学校の先生という仕事を思いました。その時、お父さんの

「大きくなったら覚えれば良いんじゃない。」

と言われたことを思い出しました。私は大きくなってでも手話をしたかったので、ろう学校の先生という仕事は良いんじゃないかと思いました。

三つめの理由は、ろう学校の先生という仕事に、ほこりをもってそうだからです。先生達は、どの先生も生徒のためにいろいろしていました。例えば、分からないことがある生徒に勉強を教えたり、授業の準備をしたりしていました。大変そうだけど、生徒達のためにいろいろしてくれて、かっこいいと思いました。そして私は、勉強や運動を教えてください

先生があこがれです。だから、生徒のためにがんばられて、生徒のあこがれになれる学校の先生という仕事はほこりをもてる仕事だと思います。

私はしよう来の夢を考えている時、ろう学校の先生以外に、市役所の人も思いつきました。市役所の方は、市に住んでいるいろんな人と関わります。きつと、耳の聞こえない人も関わります。そんな時、手話が出来れば手話で対応することが出来ます。もちろん市役所の人もすごい仕事です。でも、私は、勉強や運動を教えてください先生がすごいと思っし、生徒達のために大変でもいろいろしてくれる先生がかっこいいと思います。だから、私はろう学校の先生になりたいと思いました。

私はこの三つの理由でろう学校の先生になろうと思いました。「手話」をすることは私のしゅみなので、もしろう学校の先生になったら、大変でもがんばれると思います。お父さんの、

「大きくなったら覚えれば良いんじゃない。」

という言葉聞いた時、私は、なんで大きくなってからなんだろうと不満に思ったけど、その言葉がしよう来の夢を決めるきっかけとなりました。私は、運動は全然出来ないし、勉強も全然出来ません。そして、手話もまだ全然出来ません。だけど、しよう来の夢に向かって、勉強や運動をがんばろうと思います。そして、手話も覚えられるようにがんばろうと思います。そして、ろう学校の先生になったら、仕事にほこりをもって、みんなに胸を張って、

「私、ろう学校の先生なんだよ。」

と言いたいです。そして、私が先生にあこがれて、かっこいいと思うように、生徒達に

「先生かっこいいな。」

とか、

「先生にあこがれるな。」

と言われたいです。そして、そう言ってもらえるくらい良い先生になれるように、勉強も運動もがんばって出来るようになりたいです。そして、手話も覚えられるようにがんばりたいです。